

会長挨拶



2025・26年は災害の多い年となりました。本県では1月に大きな地震に見舞われました。また、熊本県でも大地震が発生しました。千葉県をはじめ多くの地域で大雨による災害が発生しました。被害に遭われました皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興をお祈りいたします。

さて、今シーズンより本連盟の名称が鳥取県スキー・スノーボード連盟（SAT）に変更となりました。これは、全日本（SAJ）の名称変更を受けてのものです。さらなる冬季スポーツ、特にスノースポーツの発展を願うことでもあります。先シーズンは、冬季オリンピックがミラノ・コルチナで開催されました。スキー・スノーボードをはじめ各種競技で日本勢の活躍があり、ウインタースポーツへの注目が高まりました。スキー場へ足を運ぶ人が増えることにも大きな期待を持っています。

本連盟に目を向けますと、競技本部では近年国民スポーツ大会での入賞は遠ざかっていますが、クロスカントリーでは女子リレーが9年ぶりに出場し13位となりました。そのメンバーの一人の土屋美晴選手は、個人の成年女子Bにおいて9位となりました。僅かな差で入賞は逃しましたが、今後の活躍が期待されます。アルペンとスノーボードも前年度は全国大会での入賞はありませんでしたが、競技本部一丸となり強化に励み競技力アップに努めています。

教育本部では、先シーズンからジュニアスキー教室を東部会場（氷ノ山スキー場）でも開催しており、広報活動を充実させ東部西部両会場とも参加者数の増加につなげることができました。全日本スキー技術選手権で田代優太選手が県勢で初めて予選を通過し122位、全日本スノーボード技術選手権では井上一輝選手が2年ぶり2回目の予選通過で77位と健闘しました。また、検定会ではスキー指導員1名、スノーボード指導員3名、スキー準指導員3名が合格し、今後の指導現場での活躍が期待されます。

総務本部では、昨年度から医科学委員会が競技本部から総務本部に移されました。競技本部・教育本部の選手が川西広晃トレーナー（全米アスレチックトレーナーズ協会（NATA）公認アスレチックトレーナーATC）の先進的なメカニズムによる指導のもとでトレーニングに励んでいます。来るシーズン、及び、その後の競技会での好結果に現れて欲しいものです。

大山では今年から指定管理業者がかわり、名称も大山マウンテンリゾートとなりました。新たなスキー場としてスタートとなります。スキー・スノーボードを取り巻く環境はますます厳しくなっているところではありますが、より一層の盛り上がりと一緒にできるよう役員一同努力してまいります。

最後になりましたが、日本交通株式会社（だいせんホワイトリゾート）様に於かれましては長年本連盟にご尽力頂き誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。また、日頃より本連盟に多大なるお力添えをいただいております鳥取県、鳥取県スポーツ協会、県内スキー場関係の皆様、賛助会員の皆様に厚くお礼申し上げ、また変わらぬご理解とご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。